

読む・百人一首 005

猿丸大夫

奥山に

紅葉踏み分け

鳴く鹿の

声聞く時ぞ

秋は悲しき

おくやまに

もみぢふみわけ

なくしかの

こゑきくときぞ

あきはかなしき

読む・百人一首 006

中納言家持

かささぎの

渡せる橋に

おく霜の

白きをみれば

夜ぞふけにける

かささぎの

わたせるはしに

おくしもの

しろきをみれば

よぞふけにける